

とよひろ
豊博さん

わたなべ
渡辺

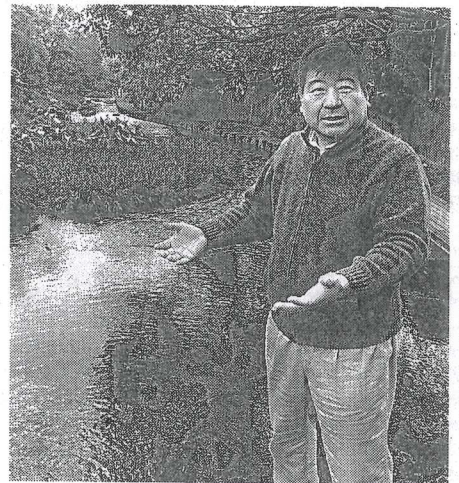
都留文科大学教授



渡辺さんのNPO活動の原点は静岡県三島市の源兵衛川の再生にある。今こそホタルが乱舞し、水中花の三島梅花藻が清流に揺れるが、水の都の名が消えるほどのどぶ川からの出発だった。

静岡県庁に入って役職につき、子供もできて生活も安定した35歳のころでした。自分の仕事と将来を再確認し、ふるさとを見つめ直したいと思う時期だったのです。満天の月と星の下、いつもながら酒を飲んで子供の頃よく遊んだ桜川をのぞくと、水が無く、白い生首のようなものがたくさん浮かんでいました。それはゴミ袋でした。ヘドロと悪臭で気持ちが悪くなりました。家に帰って眠れず、朝方もう一度行ってみました。おぼちゃんゴミを捨て、おじ

汚れていた源兵衛川は再生した(静岡県三島市)



富士山の恵の鎮守の森や湧水池、子供の頃に遊んだ川はゴミだらけだった。悔しく思い、これは何とかしなければと覚悟しました。

農業土木が専門の渡辺さんは、日本で初めて導入された水環境整備事業で調査費をつけ源兵衛

「水の都」三島のどぶ川再生が出発点

「パートナーシップ」が活動のバイブルに

環境・農業・地域振興…生活者や弱者の目線

ちゃんも捨てていた。「何やってるんだあ」と私は切れて叫んだ。

しかし、26年間もこんな汚い状態が続き「埋めるしかない」というあきらめの気持ちがまん延していた。「あなた、県庁に行ってるよね。人に文句付ける立場なの。ところでゴミ拾ったことあるの」そう問われ、ゴミを拾ったこともなければ、酒ばかりを飲むだらしない毎日だった。調べてみると

川再生に本腰を入れた。

三島ゆすい会を立ち上げ、2年目にはNPO法人グラウンドワーク三島をつくり8団体のネットワークを構築しました。県庁職員のまま事務局長に。2つの立場を持つリスクは高く、県庁内でもいろいろと言われましたが、マスマディアが取り上げてくれ、当時の知事も「おもしろいことをやっているね」と支えてくれました。

毎週ゴミを拾い続け嫌みっばい「川を歩いてどこの家が雑排水を垂れ流しているかを調査する会」などのイベントもやりました。努力しても成果が出ないので多くの支援者が離れていきました。地道な努力だけでは解決しませんでした。1987年からスタートし、行政が動いたのが89年、工事は90年から98年までかかりました。渡辺さんが立ち上げたグラウンドワーク三島は、日本で初めて英国のグラウンドワーク

るときに「水と緑のまちづくり委員会」の名前を考えたのですが、もっとグローバルでブランド力のある国民的運動が先進国にないかと調べ、これだと直感したのが、英国のグラウンドワークの「パートナーシップ」という仕組みでした。三島では「地域総参加」と言っていました。発想を変えました。彼らを源兵衛川の現場に招き、現地調査を踏まえ、10の提案をもらい、それがいまでも活動のバイブルになっています。

グラウンドワーク三島では現在まで約60の事業を展開してきています。水辺の環境再生活動、環境教育、農業再生のほかに地域振興の「コミュニティビジネス」です。

連合体と提携した先駆的なNPOで、都市や周辺の環境改善を市民、行政、企業のパートナーシップにより解決していくことを目的としている。

この15年間で英国に53回行ってます。毎年2〜4回はグラウンドワーク連合体を訪ね三島での活動の報告と情報交換をします。夏は学生のインターンシップを受け入れてもっています。学生は、英国の田園でグラウンドワークトラス

トの運営や経営の手法を学びます。湖水地方で自然環境の保全活動を体験してもらいます。

三島の源兵衛川の再生運動をや

次回はJリーグチェアマンの村井満さん

(聞き手は編集委員 工藤憲雄)

富士と共に生きていく